

教材
繪畫捷徑

一名應用黑盤畫

植物之部



K121.7

25

教 繪 畫 捷 徑

植物の部

例 言

一 この書は幼稚園時代から小学時代にかけての児童の作習とすべき格好の書写本
 様のものを得やうとするも見當らぬのと又教師が彼等を教授する折畫をえがく
 ことの必要は一般に認め居らるゝも殘らずの教師が畫に巧みだとはいへぬのみ
 か桃一つえがくにも困るものも少くないやうである此等から一は児童の娛樂的
 の書写本に又一は教師が説明の折など黒盤上で児童に示す畫の材料にもと思つ
 て編纂したのである。

二 この書は動物植物庶物の三つに分つて凡そ必要と思はるゝものだけ掲げ尙足
 らぬ分は補遺として出す積りである但し風景の類はいくらか前の三の中に含ま
 せてある。

三 この書の畫はある種類のものを除くの外は大抵粗中密の三段位に書き分けて置
 いたがその粗なるは筆者の最も苦心した所で又密といふも普通世に行はれて居
 る畫に比ふれば餘程省略してある。

一、この書は、恰も字書のやうになつて居るから、例へば、龜と兎との話を、一面に云がくには、尙ふて居る龜と、寢て居る兎と、又堤若くは、小山などと、組合はせねばならぬ。されば、兒童はその組合はせの興味あるべく、教師は依つて、ある説明の書を作ることに出来来るだらうと思ふ。尤も童話に要する纏つた書とか、又は地理歴史理科などに、特に纏めて書き見はすことを、要するものは、補遺にゆづる。

一、この書は、右の次第であるから、教師には、黒盤畫の手本となし、兒童には、慰みに云がく手本とするの外、寫生の參考又は、綴り方の發表を補ふ、材料の手本とせやうとするのである。

この書を用ふるに就いて

一、用具

紙、毛筆で云がくには、蔡水引半紙がよいが、慰みに云がくには、何紙でもよい。學齡前の兒童又は尋常小學一二年頃の兒童の慰みには、石盤の外西洋紙へ鉛筆で云がくなどよからう。

筆、尋常小學一年頃までは、普通の習字用の筆でよいが、それからは、矢張畫筆を用ふるがよい。そうして畫筆は、線描筆、面相筆、取筆、彩色筆の四種を備ふればよい。

併し、小學校では、この中の線描筆、彩色筆の二種又は普通の水筆と、眞書とでもよい。いつれにしても、使用後は、奇麗に洗つて、穂尖をそろへ置くこと大切である。

木炭と羽筆、木炭は、圓取りに用ふるので、賣物にあるが、柳箸を蒸焼にしても、槍の細い棒を、焼いて用ふるもよい。いづれも、木炭挾を用ひて、手を汚ぬやうにし、

又木炭の尖は、削つて細くして用ふる。尤も尋常小學校などでは、木炭の代りに、鉛筆を極軽く用ひ、こむて容易に消し得るやうにするもよい。

羽筆は、木炭を拂ひ去るに用ふるもので、多くは、鴨の羽を用ふるが、何羽でも、やわらかでさへあればよい。

硯と文鎮、これは、説明するまでもないが、使用後、墨を捨づるがよい。それは、止め置き、の墨は、畫によくないばかりでなく、衛生上にもわるいからである。

筆洗と皿、筆洗は、白い色の陶器で、二つに區切りをしてあるのがよい。が、他の物を代りに用ひてもよい。近頃は、亞鉛製のものがある。これならば、こわれる憂はない。

皿は、普通の白い色の小皿でもよいが、畫學用の菊皿ならば、更によい。

繪具、日本繪具には、その價の高いものもあるが、一組五錢位から三十錢位のもの

のを用ふればよい。但し色の原となる赤黄青の三色だけでもよい。

色チヨリクは、赤青黄など六色六本で一組九錢位のと十七錢位のとある。尤も十七錢のは色鉛筆である。そうして之を用ふるには、西洋紙がよい。

色白墨は坊間にも賣つてあるが教師が白墨を要する色の中に浸して作ることも出来る。黒盤にゑがくには必要である。

一 姿勢

椅子に倚つたときは、兩足を正しく前にそろへ、胴と頭とを真直にして机に正しく向ひ、寄りかゝらぬやうにせねばならぬ。又坐つたときも、胴と頭とを真直にして正しく坐はり、膝などを机に掛けぬやうにせねばならぬ。

一 筆の持方

習字のときと同じ、即ち筆の軸を右の手の拵指と、食指中指との間に挟み、小指と一處に無名指を軽く内の方から添へる。そうして筆は常に紙面と、真四角になるやうにする。

一 畫をゑがく順序

畫をゑがく順序を一々説明することは出来ぬから、その大體に就いて言へば、先づゑがかうとする畫の、大小長短などをよく見て、最初歩は鉛筆稍進んでは、木炭で下圖を作り、自ら認めてよいと思はゞ、軽く羽筆で拂ひ、後その痕についてゑがく。そうして、それをゑがくには、大抵の場合には左の方からする。これは眼の上からも又顔を汚さぬ上からも、大切である。

又初步の中は半紙を四つに折るか、若くは縦三つ横二つなどに折り、又手本の畫にも同様の假線をつけて、位置を定むるもよいが、最後の目的は、すぐとゑがくやうに、ならねばならぬのであるから、進んでは、木炭までも用ゑぬ覺悟をなければならぬ。

一 濃淡

墨の濃淡の施し方によつて、遠近高低、凹凸などを現はし得るのであるから、光線のあたる所は淡く、當らぬ所は濃く、又近いものは濃く、遠いものは淡くするなど、心得ることが大切である。

一 彩色

色には、いろ／＼のがあるから、簡單には説明し難いが、この書動物の部に示したやうに、赤(紅)青(藍)黄の三色を混合して、其色を作るがよい例へば、赤と青とは紫、赤と黄とは橙、青と黄とは緑となる。この外尚その分量によつても、又色と色との混合によ

つてもいろいろのものが出来るから、それは試むるがよい。但し朱と袋緒とは合せ
ても出来ぬ。

一 注意

1. この書はもと略書を主としたのであるから、似寄つたものは省いてある。故に雛
子の應用で山鳥、鼯鼠の應用で貂、鯉の應用で鮒をえかくといふやうに、その幾分
は考案して應用せられたい。
2. この書は形を顯はすことを主としたのであるから、大小などの釣合は考へて置
かぬ例へば、象と蠅、鶴と雀など、左程の違ひなく書いてある。故に實際にえかくに
はその釣合を考へねばならぬ。
3. 初歩の兒童は石盤又は西洋紙に、鉛筆でえかくがよい。
4. 寫生の前には、その大體のえがき方が分らねばならぬ。例へば雀を寫生するには、
この書で、先づ雀又は鳥などの略書のえがき方を知つて、後その實物に就いて思
ふまゝをえかくがよい。
5. 綴り方の中に書を用ひて、その發表を助けること、兒童時代では極めて興味があ
つて且大切のとである。例へば雁が上圖のやうに若くは鷹のやうに列を作つて

など、巧に迅速に用ふると、その文章がますます活きて来る。

6. 書には、臨書、寫生、畫、考案、畫、記、臆、畫、聽、畫など、細に分てはいろいろあるが、此等は皆
この書でそれの目的を達することが出来やうと思ふ。

7. 教師が黒盤にえがかうとする前には、先づこの書中の適當な畫によつて、一、二回
えがいて試み置くこと、必要であらう。

8. 説明中にえがいては時間のかゝると思はるゝ畫は、先づ小黒盤にえがいて置い
て、適當の時に提示すべきは勿論である。殊に畫に巧みならざる教師が、柳と蛙
若くは狐と獅子と組合せて提示しやうなど思ふときは、これが最良法であらう。
9. 人物は成るべく様々のことを顯はさうとした爲め、大そく多くなつたから、
その名をわけぬ。

明治三十六年四月

著者しるす

材教 繪畫捷徑 植物の部

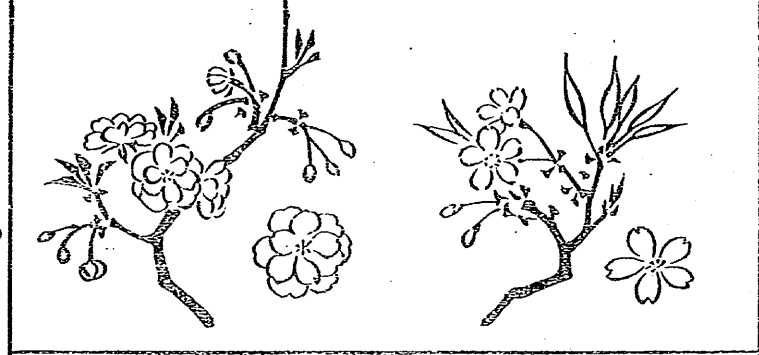
目次

- | | |
|---|---|
| <p>一、 さくら。さくら。さくら。つばき。
 二、 かいどい。ぼけ。つてじ。しやくやく。ぼたん。
 三、 あざみ。ばら。しよぶ。すみれ。たんぽぽ。
 四、 めね。ほくつき。ひあふぎ。われも。こうふぢばかま。
 五、 けし。てせん。みつあふひ。かうほね。おもだか。みつひきぐさ。りんどう。
 六、 ふくじそい。やぶこうじ。らん。あさがほ。ひるがほ。
 七、 ばしよ。そてつ。せきちく。なてして。おもと。せきしよ。
 八、 きく。ふぢ。やまぶき。
 九、 をみなへし。きさよ。かるかや。しよかいどい。ぼしはな。ふよ。</p> | <p>一〇、 はぎ。すき。ち。なんてん。するせん。
 一一、 うめ。うめ。なし。
 一二、 もも。まるめろ。やまもも。くかりん。ずばいもも。
 一三、 りんご。ぶし。かん。ゆず。ざぼん。ひは。
 一四、 みかん。きんかん。まるきんかん。いちじく。なつぐみ。さくろ。ぶどい。
 一五、 かき。かや。しい。くり。
 一六、 ゆすら。すもも。あんず。くわ。なつめ。むべ。いちよ。
 一七、 さうり。まるつけうり。しろうり。ゆふがほ。
 一八、 ひめうり。まくわ。するくわ。たうなす。かぼち。ちま。
 一九、 きんとく。とうく。ひよたん。</p> |
|---|---|

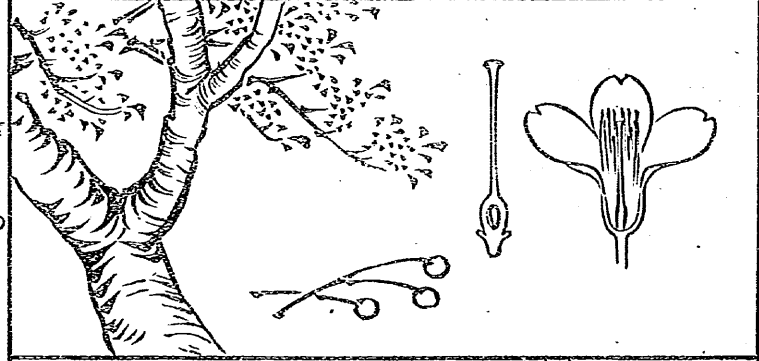
- なすび。なはしろ。はせ。たわら。かとし。
- 二〇、いも。むぎ。きび。もちきび。ひえ。あは。
- 二一、そば。たうもろこし。あづき。だいづ。
- そらまめ。さくげ。
- 二二、えんどう。なだまめ。やへなり。いんげん。
- ふぢまめ。
- 二三、だいこん。かぶら。まつまいも。ごぼろ。
- にんじん。ゆり。じがたらいも。
- 二四、はす。くず。ながいも。じねんじよ。
- こんにゃくいも。
- 二五、くろくわあ。くわあ。つくぬいも。
- たうのいも。やづがしら。さといも。
- かたくり。ちよろぎ。
- 二六、あぶらな。しそ。つるな。つけな。
- きよいな。ふぢ。
- 二七、みつば。せり。せんまい。わらび。
- しんきく。はならさ。よめな。
- 二八、じんのさい。ほーれんそー。つくし。ねぎ。

- あさつき。のびる。しーが。みーが。たて。
- 二九、たうがらし。からし。わさび。
- あざくさのり。あをのり。あらめ。こんぶ。
- わかめ。ひじき。ながひじき。
- 三〇、ふのり。ほんだはら。つのまた。
- とさかのり。しめぢだけ。しいたけ。
- まつたけ。はつたけ。
- 三一、まつ。たけ。たけのこ。たけのきりくち。
- まつのきりくち。
- 三二、ひくじ。こー。きり。すぎ。ひのき。
- 三三、まさ。かや。つた。もみぢ。やなぎ。
- しろう。けやき。ひいらぎ。
- 三四、えだ。みき。ね。かんぼく。ゆきのけしき。
- かせのけしき。あしはら。くさはら。やぶ。
- 三五、さま／＼のはのかたち。
- 三六、きのきりくち(外長、内長)。
- むぎ(並行脈葉)。くわ(網状脈葉)。
- むぎ(單子葉)。あぶらな(雙子葉)。つぎ。

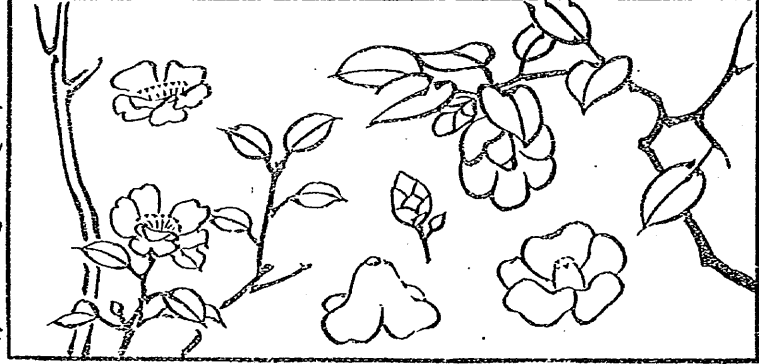




さくら



さくら



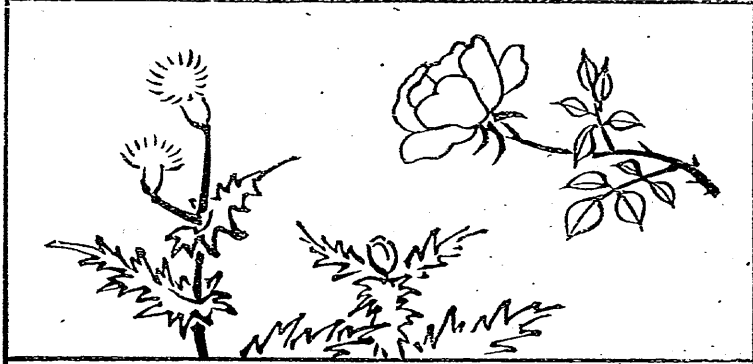
さくら

植

つばき

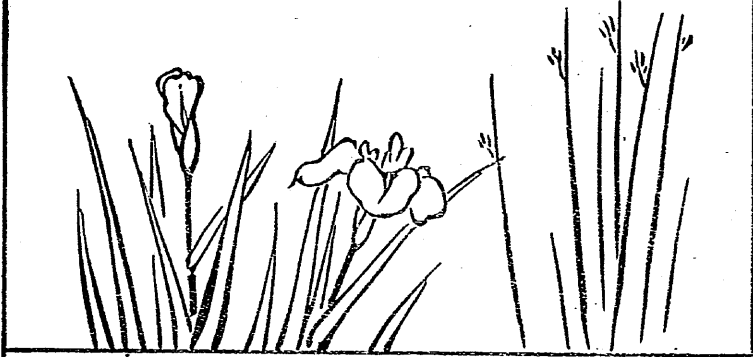


あざみ



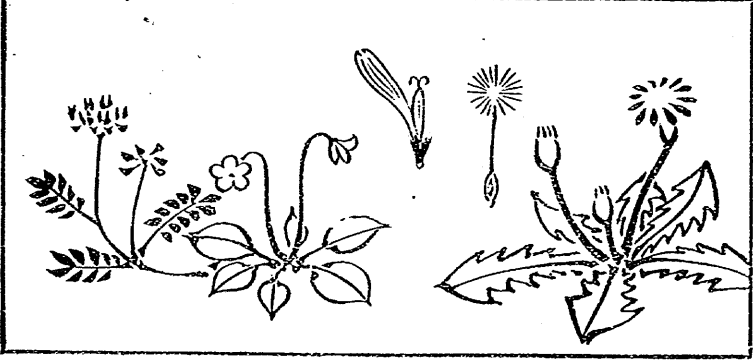
ばら

しょうぶ



ろ

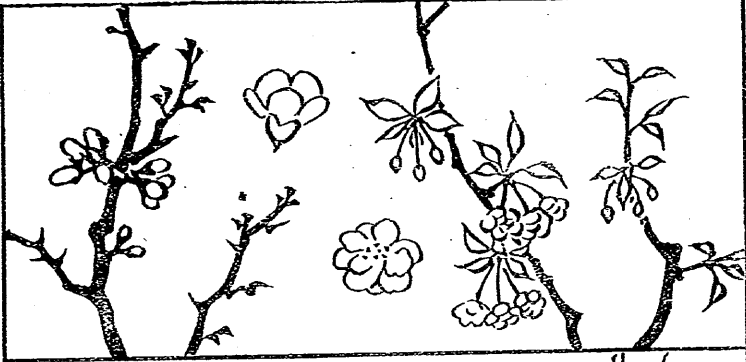
すみれ



たんぽぽ

植三

ぼけ

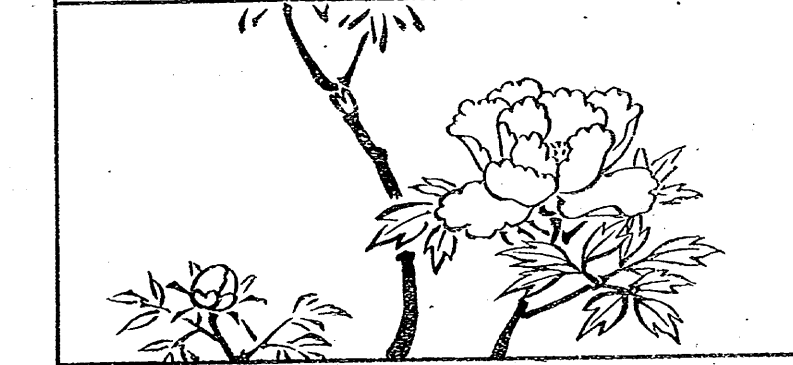


からざり

じかくやく



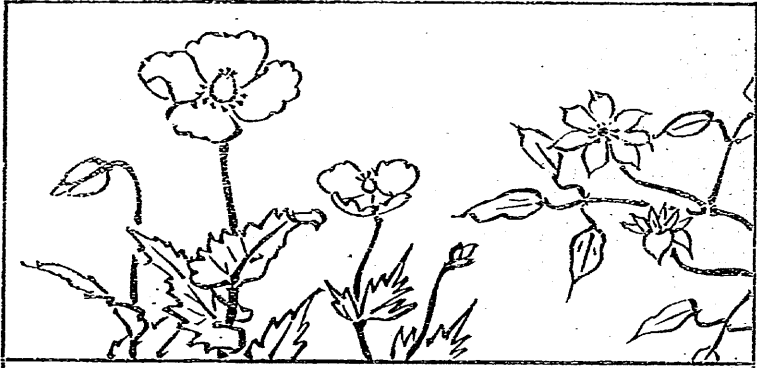
しんざん



ぼたん

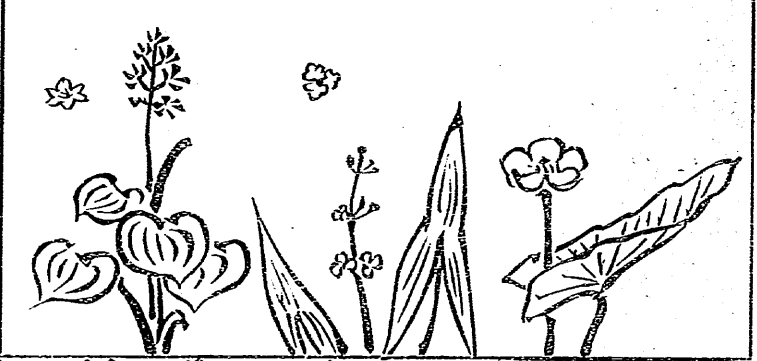
植二

ハシ



てっせん

みつあかいとうほね



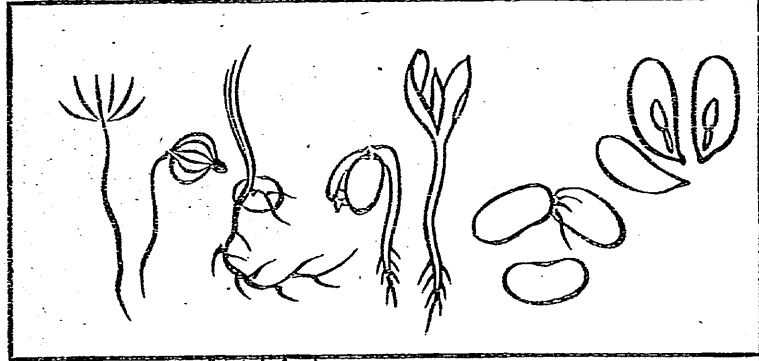
おもたか

みつひきくさ



りんごー

植五



めとね



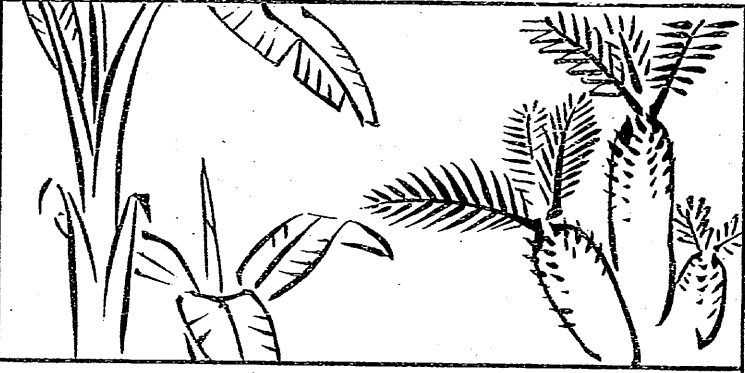
ほつぎ



ふぢばかま

ひあふれもらう 植四

ばしよー



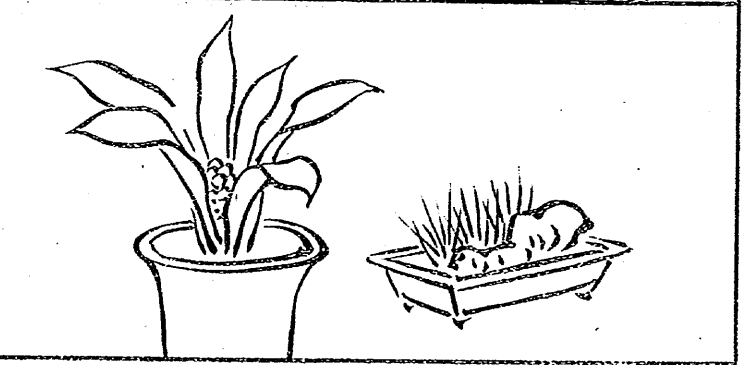
そりり

せきちく



なげこ

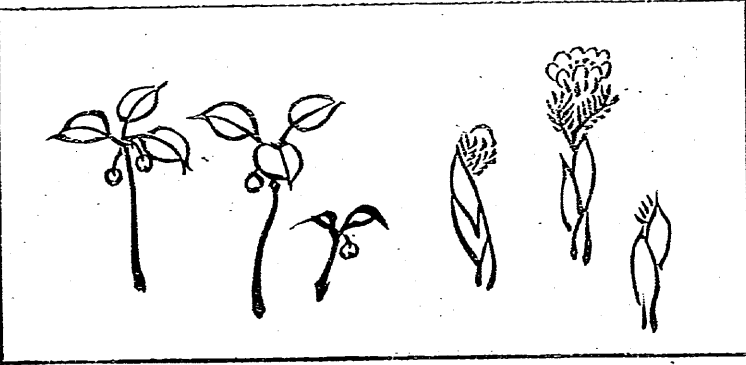
おもと



せきしよー

植七

やまのりー



ふくじそー

かろがほ



らん

あさがほ

植六



おみなへし



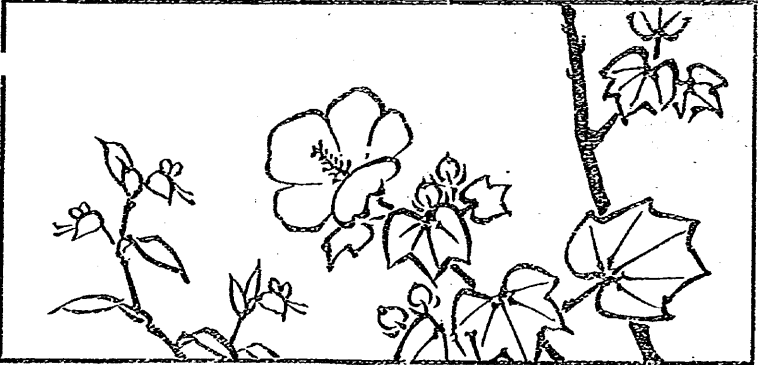
アコニチム

かるかや



アコニチム

ほしはな 植九



アコニチム



ハク

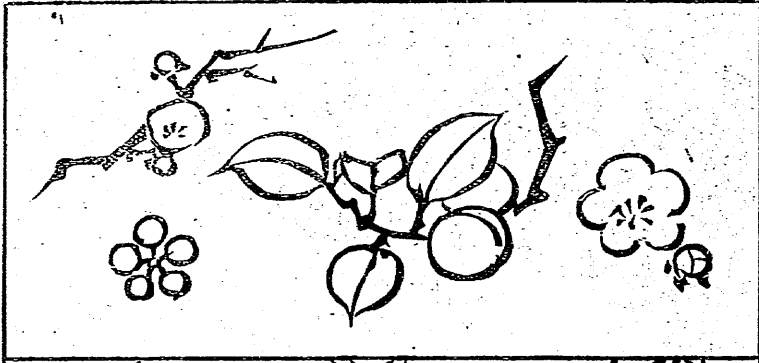


ハク



ハク 植八

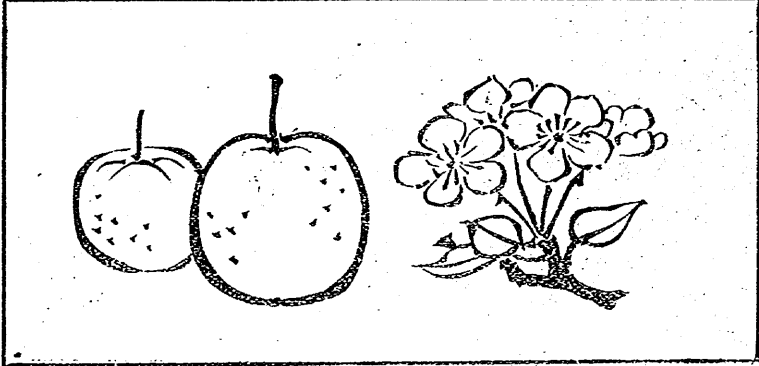
うめ



うめ

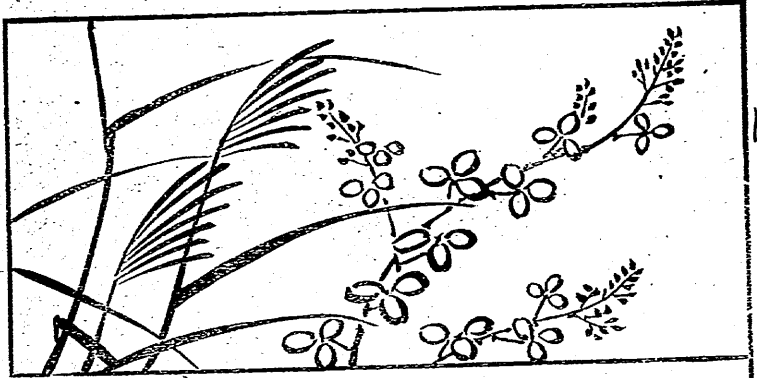


なし



植十一

すしき

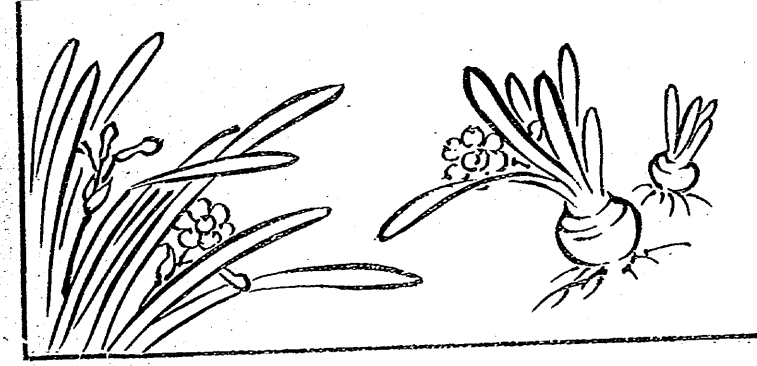


はち

なんじん



ちや



すのせん

植十

りんご



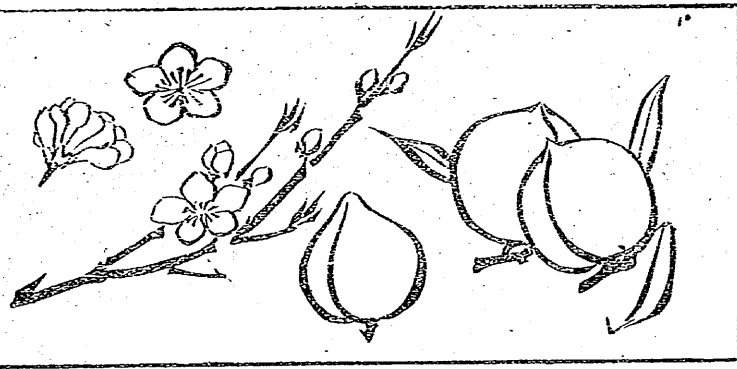
ぶどう
かん
ゆず



いちじく

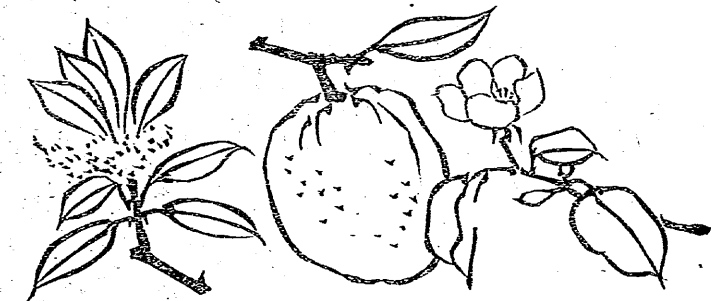
びは

植十三



さくら

あけぼの



あけぼの

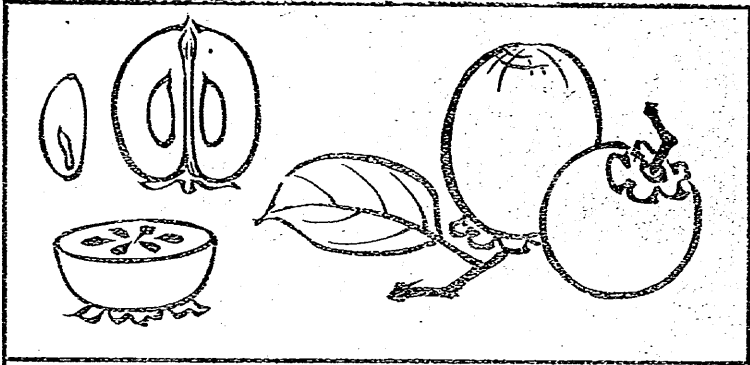
あけぼの



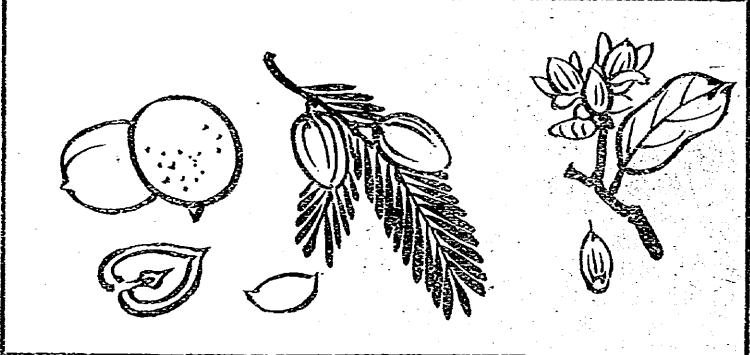
くわりん

植十二

かき

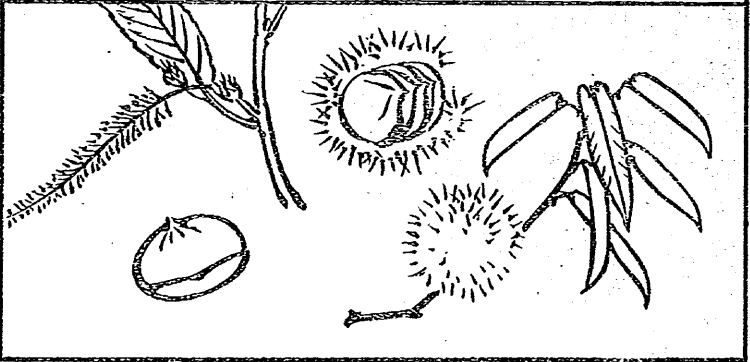


かや



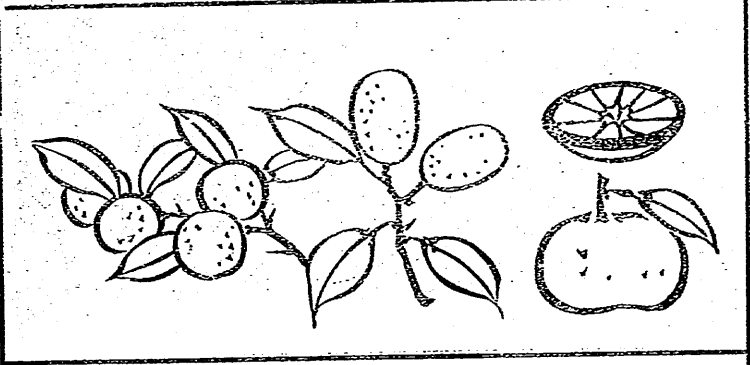
しし

くり

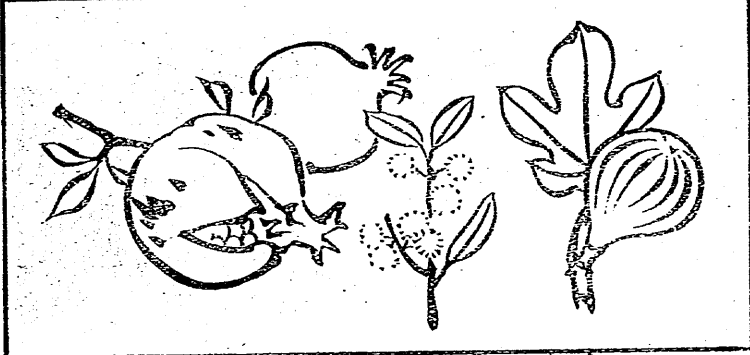


植十五

まるぎんかん



やぶくら

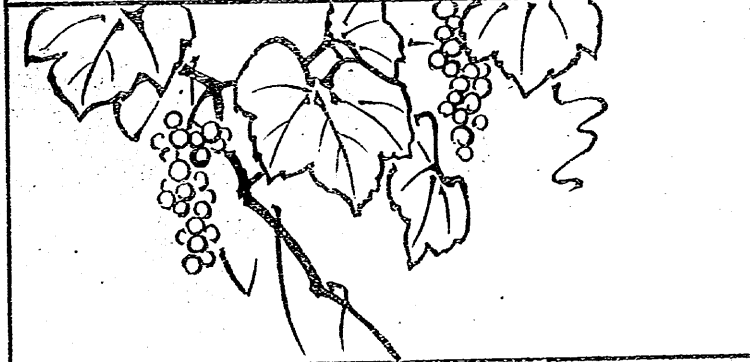


みかん きんかん

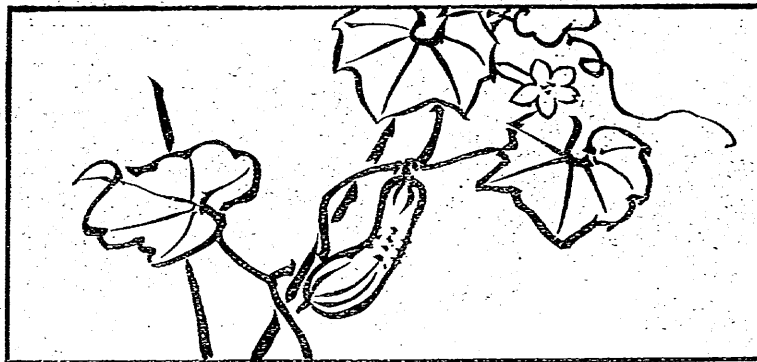
いちじく なつぐみ

ぶどう

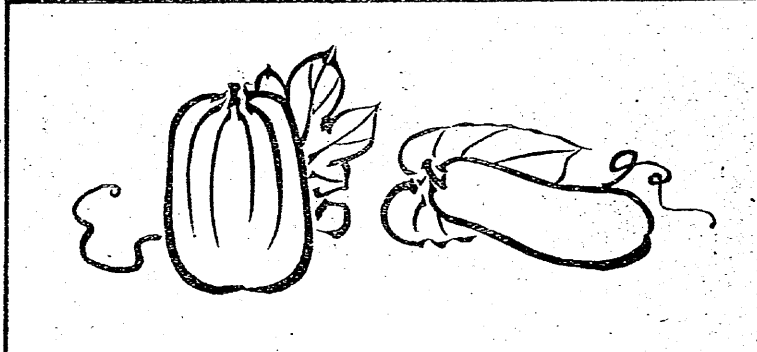
植十四



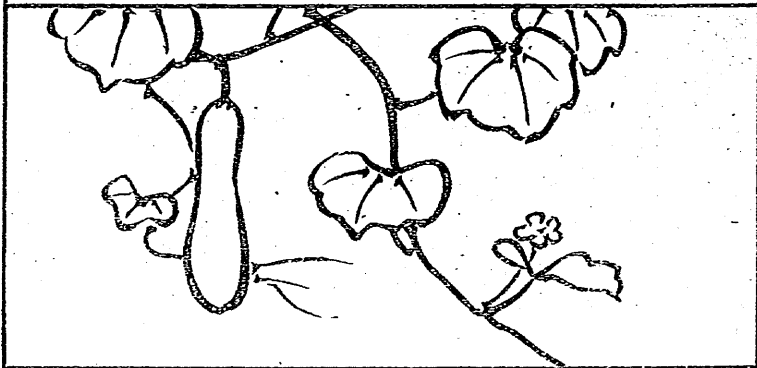
きんぎょ



きゅうり



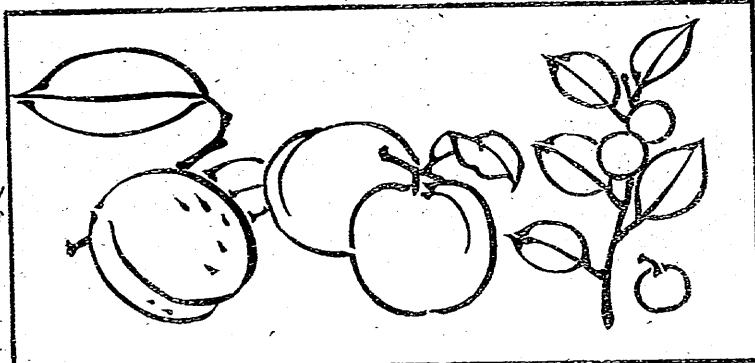
ゆふがほ



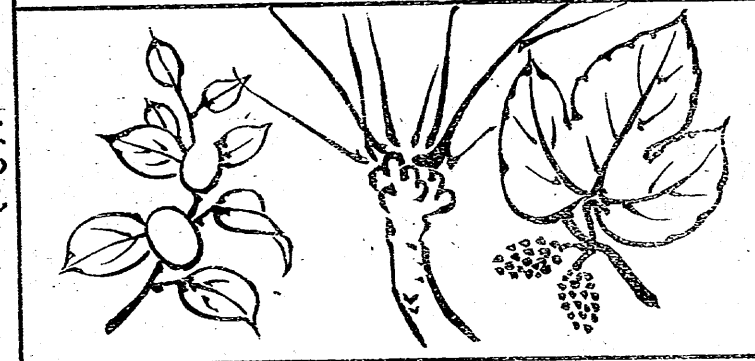
植十七

きんぎょ

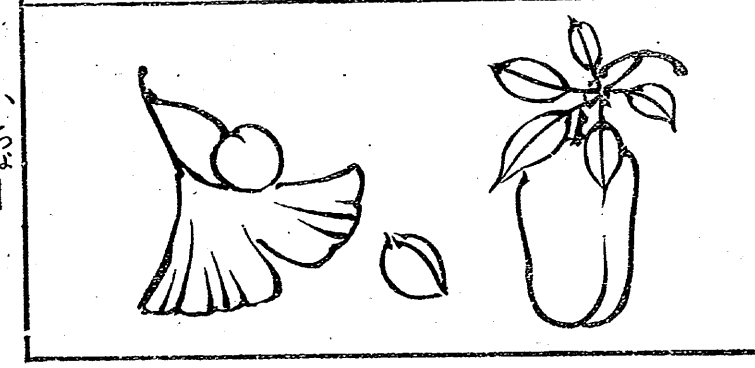
あじさい



さつげ



いんげん



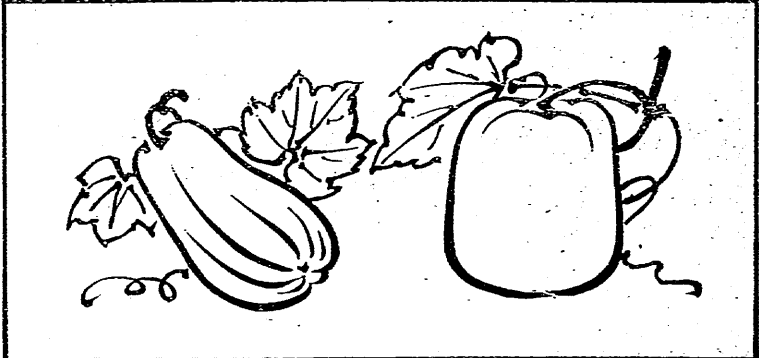
あじさい

さつげ

いんげん

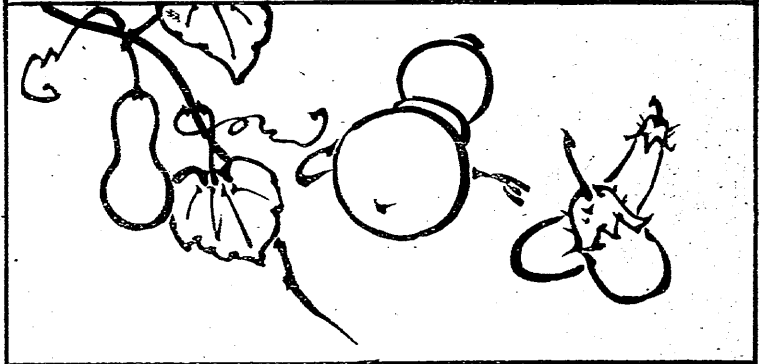
植十六

きんとうぐわ



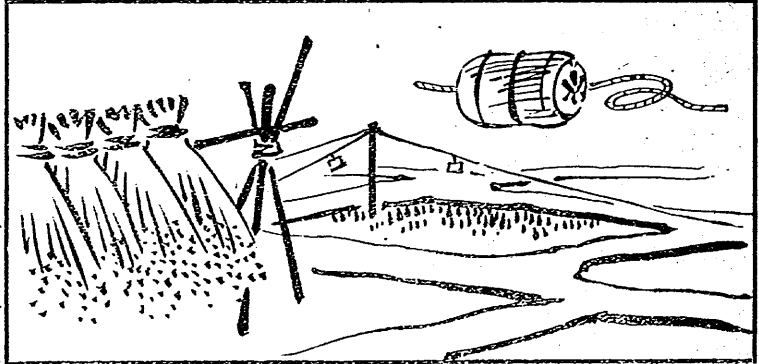
とうぐわ

ひよーたん



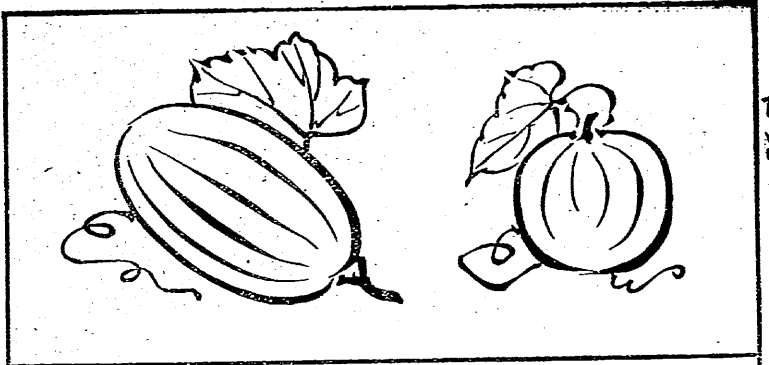
なすび

なほしろはぜ 植十九



たわらかび

まぐわ



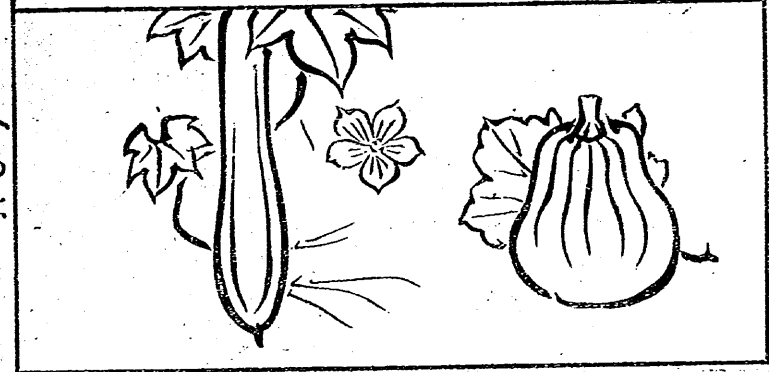
ひめうり

たうなす



すゐくわ

へちま



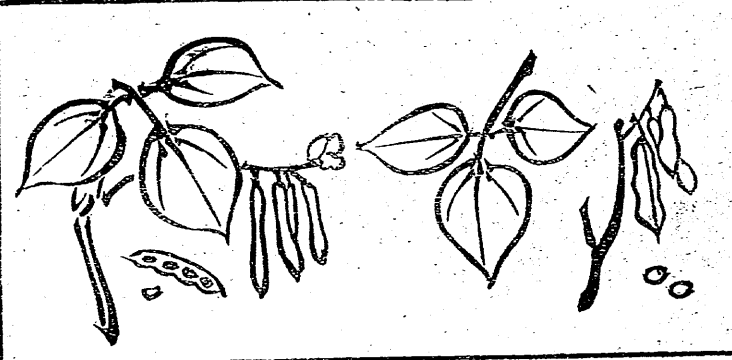
かぼちゃ 植十八

こぼし



たけのこ

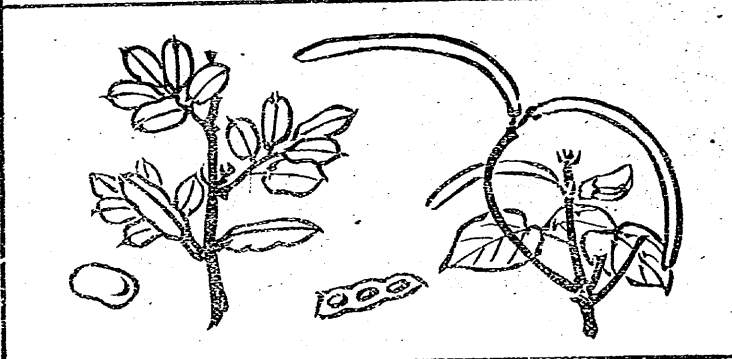
あじき



たいづ

そらまめ

植二十



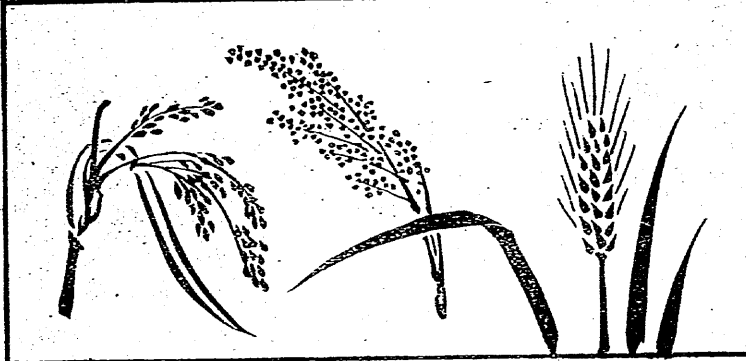
はげ

をかぼ



いね

もちきび



むききび

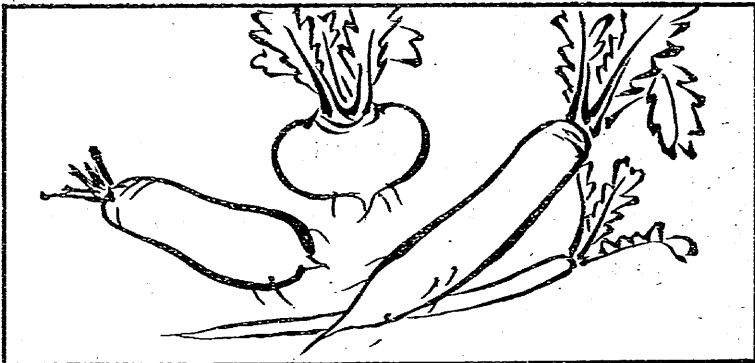
あは



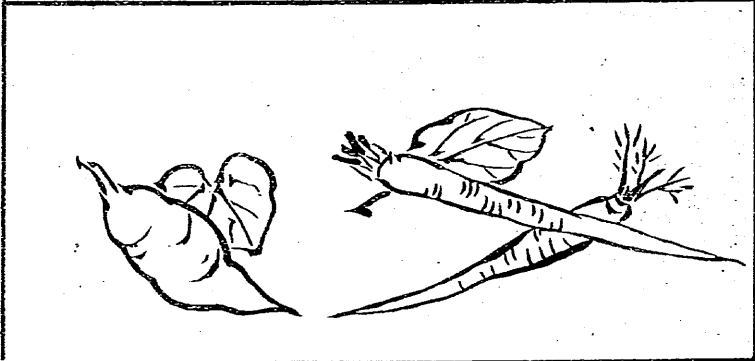
ひえ

植二十

だいこん
かぶら



さしきん
ごぼり



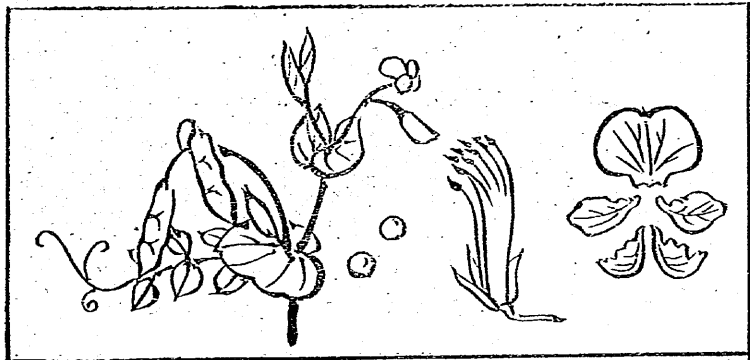
ゆり
植二十三



だいこん

さしきん

さしきん



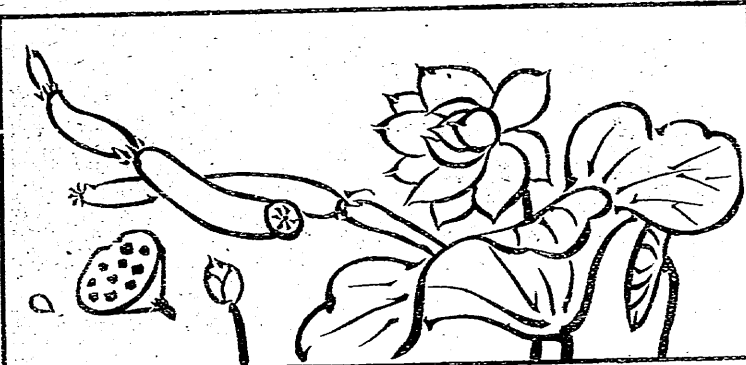
だいこん

さしきん

ゆり

植二十三

はす



くず



ながいもじねんじろ 植二十四

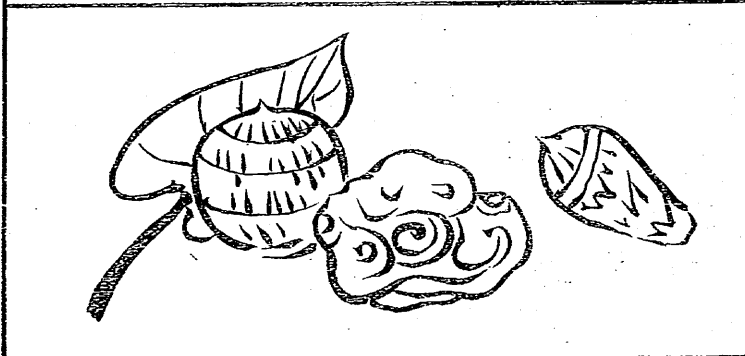


こんぼくしも

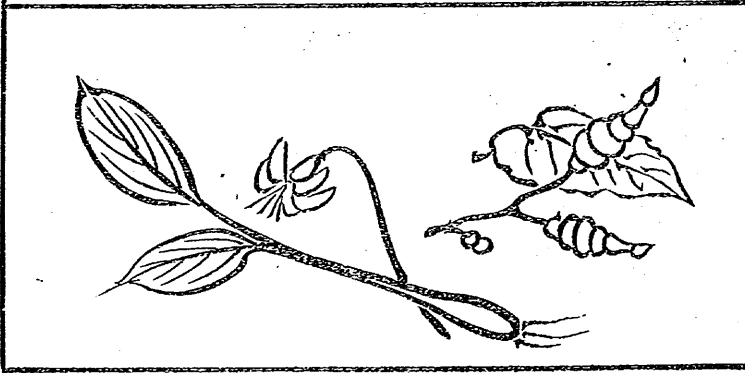
しんねんじも



せんじも



ぢんねんじ



しろくわゐ くわゐ

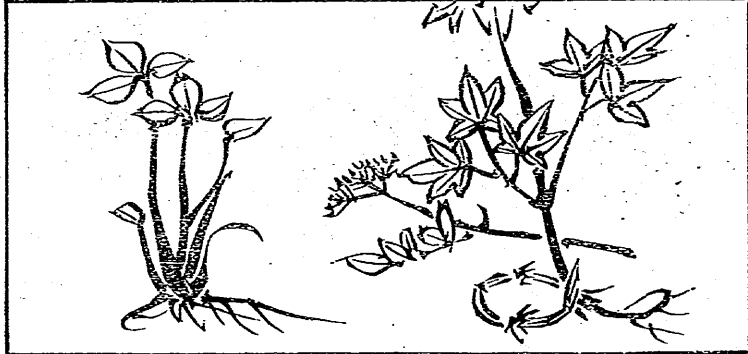
たうのいも

やぶがしら

かたくり

植二十五

みつば



せり

ぜんまい
あらび



しんきく

はなちさ
植二十七



よめな

あぶらな



しそ

つるな



つげなまな

ふき



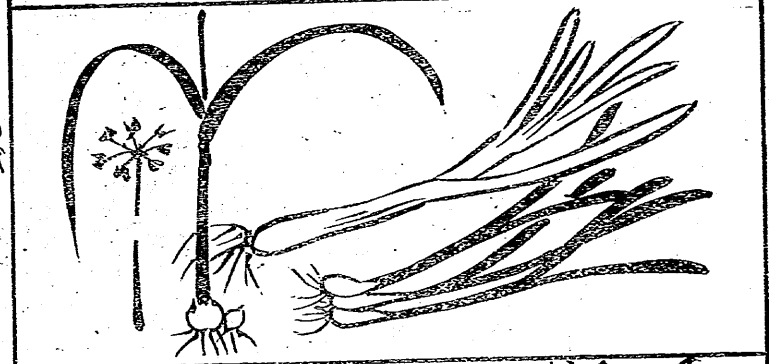
植二十六

じゅんさい ほうれんそー



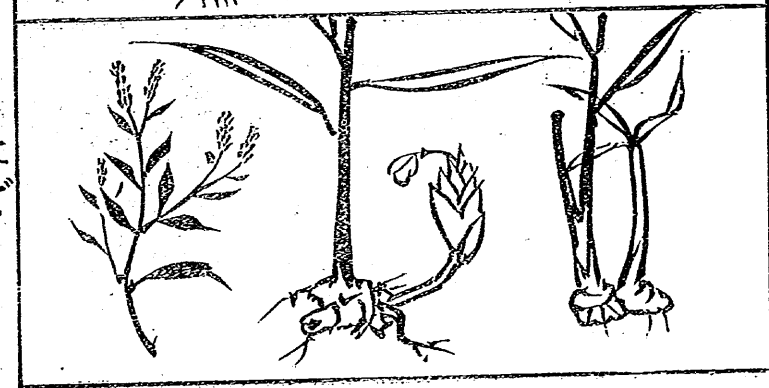
つくし

ねぶ ちんぷぎ



のびる

じゅーがみーが 植二十八



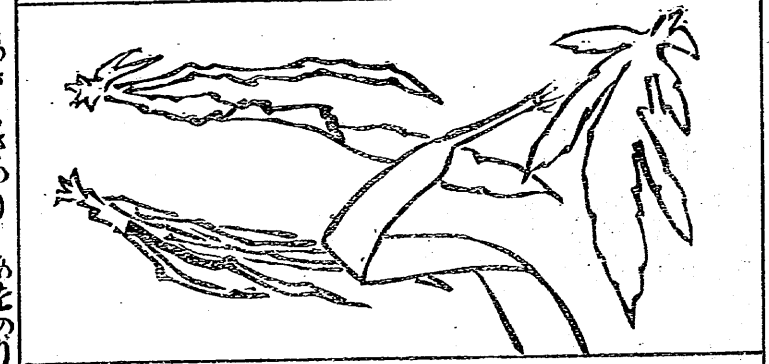
たげ

わさび



たじからし からし

あらゆる こんぎ

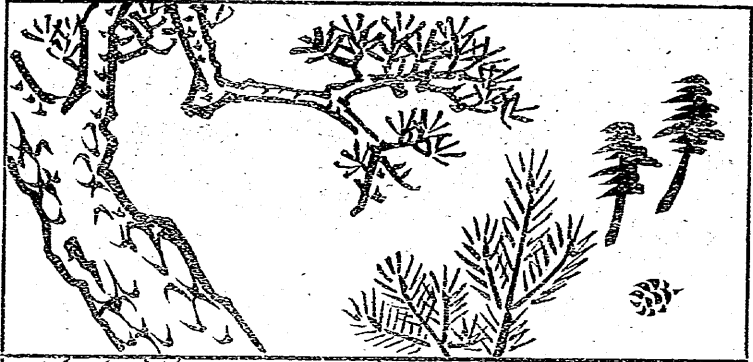


あさくさのり あさのり

ひじき なかいじき



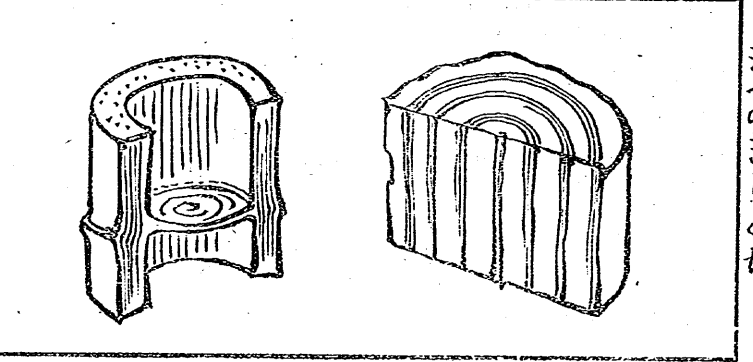
わかめ 植二十九



まゆ



たけ
たけのこ

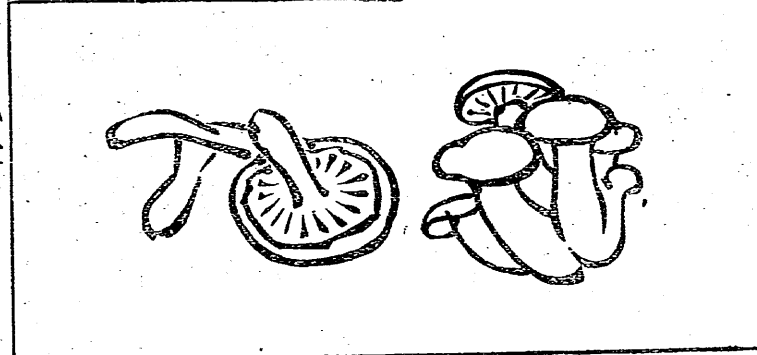


たけのきりくち

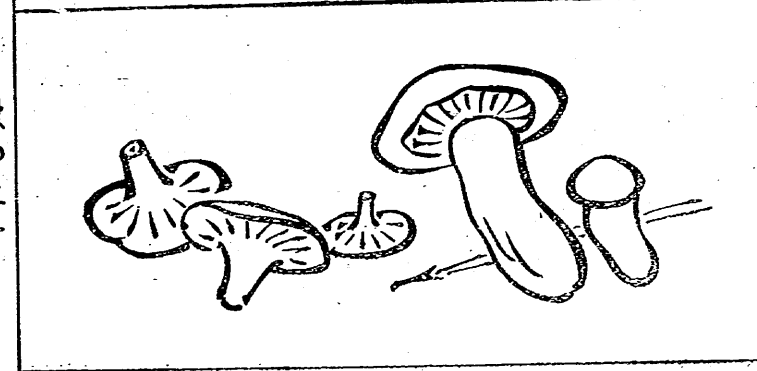
まゆのきりくち



つのもた
とさかのり



しいたけ

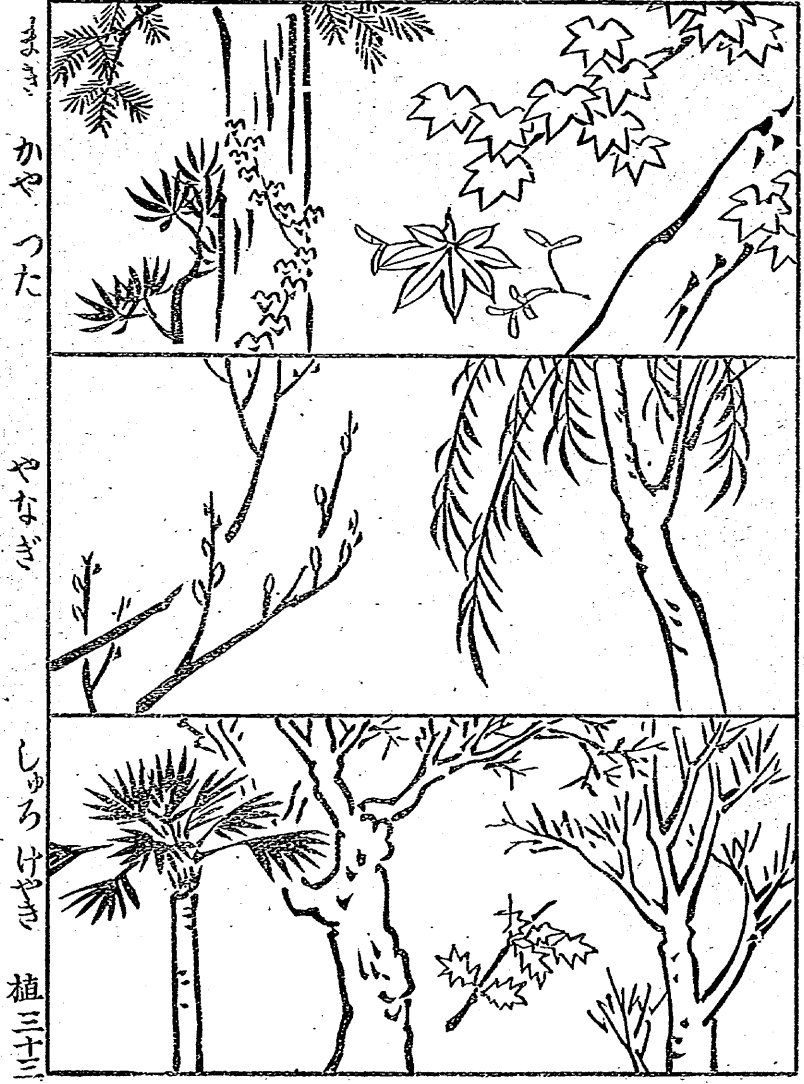


はつたけ

きのり
ほんだほり

こめぢたけ

まつたけ



まがし

かやつた

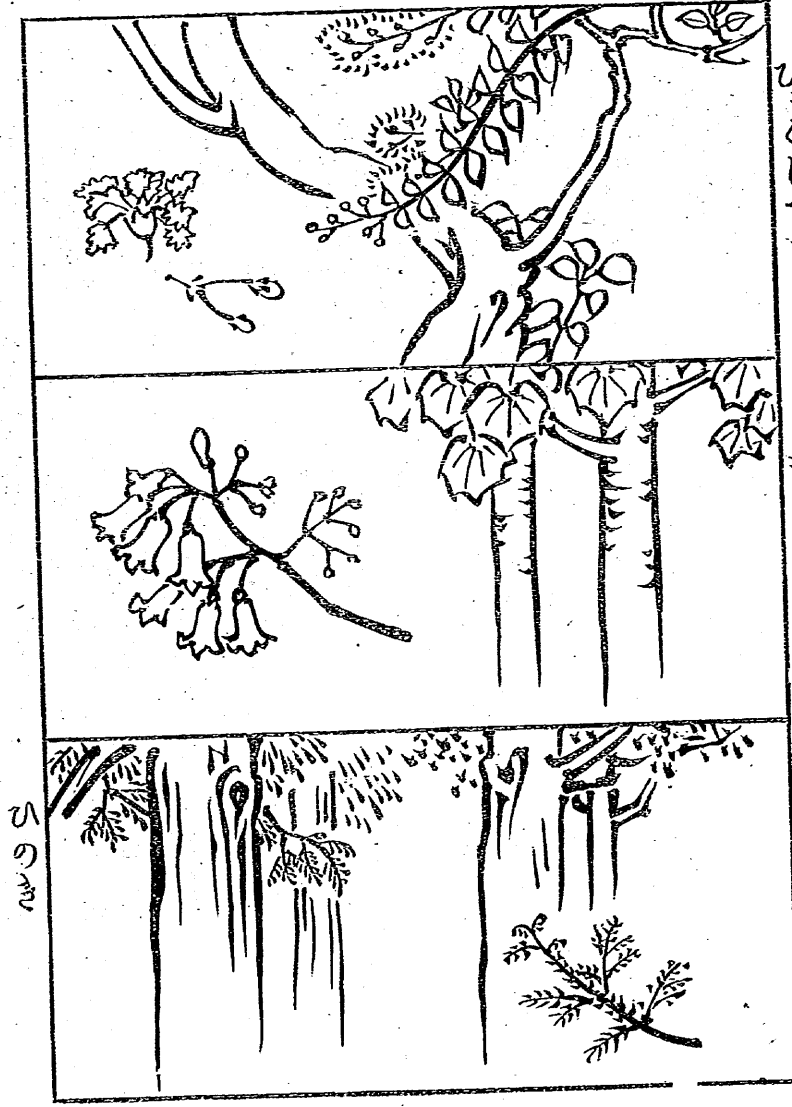
やなぎ

しゅろけき

植三十三

もみぢ

125cm



54cm

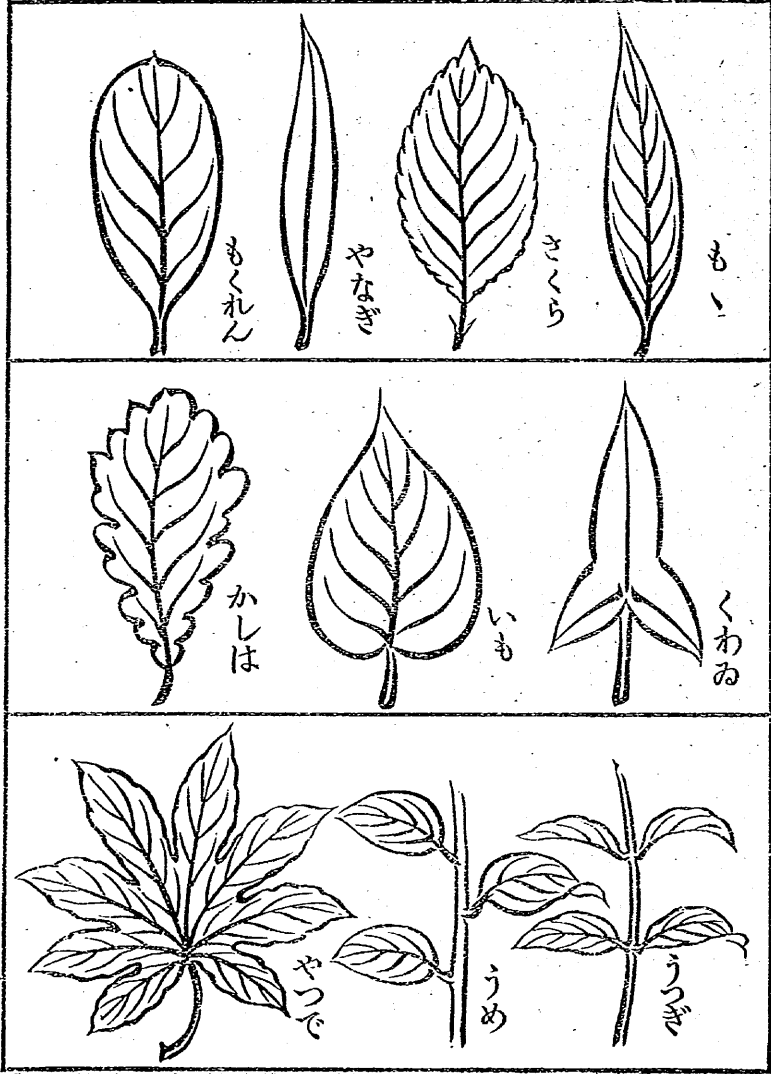
たか

105cm

植三十二

55cm

さまざまのはのかたち



植三十五

かんぼく



えだみぎね

かぜのけしき



あまのけしき

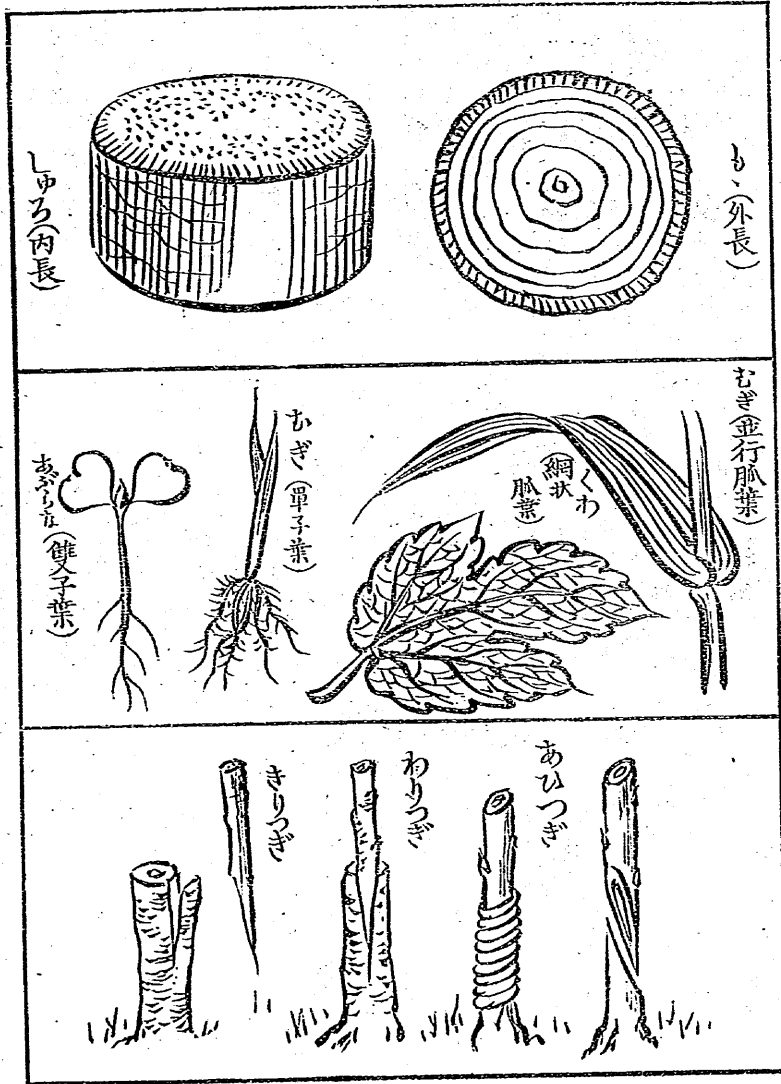
やぶ



あまのけしき

植三十四

K 1369



キノのきりくち

も(外長)

むぎ(金行脈葉)

は

つぎ

植三十六

明治卅六年五月十三日印刷
 明治卅六年五月十七日發行

植物之部

定價 金拾五

不許
 複製

立案者 遊佐誠甫
 畫者 柿山蕃雄
 發行者 杉山辰之助
 印刷者 多田三彌
 印刷所 惠愛堂
 東京市日本橋區本石町三丁目廿三番地
 東京市麴町區內幸町壹丁目五番地

發兌

東京日本橋區本石町
 三丁目二十三番地

金昌堂

